

STOP! 電気火災

令和2年中、和泉市内の火災件数は26件

そのうち電気火災は最も多い10件!

電気火災とは、電気器具や電気関係の配線などが原因で発生する火災を言います。普段から何気なく使用している家電製品やコンセント等も、使い方を間違えたり使用方法を守らなかった場合、大きな事故や火災に繋がる可能性があります。

湿度が高く感電や電気事故が起こりやすい8月は『**電気使用安全月間**』です。この機会に電気火災の予防対策について考えてみましょう。

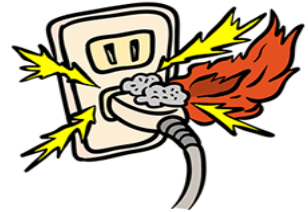
火災原因となる代表例

・トラッキング現象

コンセントに差したプラグの刃の間にほこり等が付着し、湿気を帯びることでスパークを繰り返し、導回路が形成され、出火に至ることがあります。

注意するポイント!

- コンセントのプラグを定期的に掃除する
- 使用しないプラグは抜いておく
- トラッキング対策をしたプラグやタップに交換する

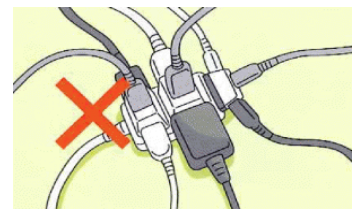


・タコ足配線 (過電流)

電気配線やマルチタップには流せる電気の量が決まっており、一度に決められた容量以上で使用すると発熱し、発火に至る可能性があります。

注意するポイント!

- 決められた容量内で使用する
- タコ足配線をしない



・配線の短絡 (ショート)・半断線

家具等での配線の踏みつけや束ねての使用、折れ曲がったままの状態で使用すると、配線の損傷や温度上昇、経年劣化により短絡 (ショート) や半断線を起こし、出火に至ることがあります。

注意するポイント!

- 配線を踏みつけたり、家具の下敷きにしないようにする
- 配線を束ねたり、折れ曲がったままの状態で使用しない
- 配線に変形や損傷がある場合は交換する



☆意外と知らない分電盤（ブレーカー）のこと

「ブレーカー」というと、いくつかのスイッチがあるものを想像します。

そして、それらをまとめているものを「分電盤」、分電盤の中にあるスイッチを「ブレーカー」と言い、そのブレーカーには主に3種類あります。

アンペアブレーカー

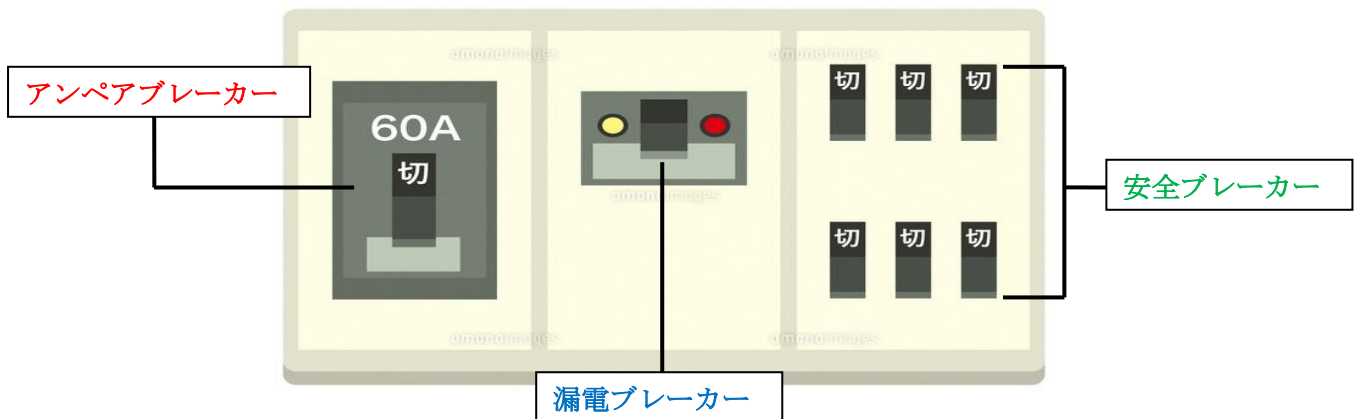
主開閉器や電気料金プランの契約電流と関係のあるブレーカー

漏電ブレーカー

漏電による火災や感電を防止するためのブレーカー

安全ブレーカー

各部屋に流れる電流を管理し、許容量以上の電気が流れることを防ぐブレーカー



○これらのブレーカーには、耐用年数が存在します。

税法上の法定耐用年数と製造元が定めた耐用年数の2種類があり、税法上の法定耐用年数は15年となっていますが、あくまでも税法上の基準であり、ブレーカー本体の耐久性や交換時期を定めているものではないので、製造元の耐用年数を確認するようにしましょう。

製造元が定めた耐用年数は10年～15年とされていることが大半です。耐用年数以上に長期間使用されていることもあります。ブレーカーも電気機器のひとつですので、少なからず劣化していきます。経年劣化により短絡などを起こし、火災原因となる可能性も考えられますので、ブレーカーの設置時期を確認し長期間使用されている場合は、点検や交換の目安とし火災予防に努めましょう。

その火事を防ぐあなたに金メダル